

長久保赤水資料・一橋徳川家資料

国指定重文へ答申

文化審

国の文化審議会は19日、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた「長久保赤水関係資料」（高萩市、同市歴史民俗資料館保管）と、「一橋徳川家関係資料」（県、県立歴史館保管）を、国指定の重要文化財（美術工芸品）にするよう萩生田光一文科科学相に答申した。夏ごろまでに答申通り指定される。

（2、27面に関連記事）
地元市民らでつくる長久保赤水の顕彰会が、埋もれた資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を長年続けており、悲願がかなった形だ。本県の国指定重要文化財（美術工芸品）は計47件で、そのうち歴史資料は2、3件目。

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801）は緯度を記載した正確な日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。重要文化財に指定されるのは、赤水の複数の子孫宅に伝来した一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の実績を考える上で最もまとまった資料群で、学術的な価値が高い。

一橋徳川家関係資料は、同家から県に寄贈されたもので、文書・記録4017点、書画・典籍224点、器物460点、写真14点から構成。一橋徳川家の家格や家政、所領経営、幕政への関与、将軍家や大名家との交際など、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で価値が高いと判断された。

（成田愛）



①長久保赤水関係資料「改製扶桑分里図」
（文化庁提供）②一橋徳川家関係資料（書）
「誠」徳川慶喜筆（県立歴史館提供）

長久保赤水資料、重文指定

顕彰会「偉業知って」

地元高萩市
喜びに沸く

高萩市出身の学者で日本で初めて経緯線のある全国地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関連資料が19日、国の重要文化財に指定されることが決まった。市民らでつくる長久保赤水顕彰会（佐川春久会長、会員517人）や赤水の子孫から「赤水の偉業を全国に知ってもらう機会になる」と

と期待の声が上がった。赤水は現在の高萩市赤浜生まれ。11歳になるまでに祖父母、弟、父母と順に亡くした苦勞人だ。ただ教育熱心な継母と、医師の傍ら塾を開いていた鈴木玄淳の影響で学問を追究するようになった。儒学や天文学、地理学などを学び、1779年に赤水図を完成。格段に正確な地形と豊富な地名を記載し、庶民に広く普及

した。流通などの面で大きな役割を果たしたとみられている。61歳の頃、農民出身ながら水戸藩6代藩主徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされた。同会は1992年に設立。不断の努力を積み重ねた赤水を尊敬し、業績を後世に伝える活動を続けてきた。子孫宅で関連資料が見

つかれば、保存・管理のため市に寄贈するよう促し、2012年には高萩駅前銅像を建立。赤水が知人や学者仲間らと交わした書簡集、マンガの発行、赤水図のレプリカ作成などの事業に取り組んできた。関連資料は17年に県指定文化財となり、同会は「国指定」も強く望んでいた。佐川会長は「国指定を眞土の土産にと誓っていたので本当に良かった。赤水は世界に誇れる先人の一人。広

く業績を知ってもらい、さらに輪が広がれば」と喜びを語った。直系の子孫の養子で、赤水の墓を守る長久保和良さん（88）は19日、彼岸に合わせ、佐川会長と共に同市赤浜にある墓に手を合わせた。墓には観光客や研究者が見学に訪れることもあるといい、「これからも皆さまにとくとご覧いただき、関心を持ってもらえれば」と目を細めた。

（小原瑛平）

R2. 3月20日 いはらき新聞

長久保赤水の墓前で手を合わせる佐川春久会長、長久保和良さん（左から）＝高萩市赤浜

